

幼稚園新唱歌

東京女子高等師範學校教授

小松耕輔

幼稚園新唱歌は日本幼稚園協會の募集に當選した四篇の歌詞に、御依頼を受けて私が作曲したものであります。歌詞はどれも幼児を教育されつゝある實際家の作でありますから、眞に童心をもつて作られた優秀な歌詞であります。

第一が「めだか」で歌詞は次の通りであります。

めだか

一、スイ スイ スイ スイ スイ スイ スイ

めだかのぎようれつ スイ スイ

一ぴき 二ひき 三四ひき

みんなでなかよく およいでく

二、きれいに澄んだ 川の水

めがかのこぎもは かはいゝな

ぎこまでぎこまで いくのでせう

スイ スイ スイ スイ およいでく

先づこの歌詞を何遍も幼児と一緒に讀んで、幼児の頭の中にこの歌の情景がはつきり書き出されるのを待ち、歌ひ

たくてたまらないさいふまで待つてゐるのです。

そこで初めの一句「スイ、スイ……」を歌つてきかせるのです。なるべく柔かに言葉に近く歌ひます。

その次は「メダカノギョウレツ、スイスイ」を教へます。

その次の「イッピキニヒキ」のイッピキはイーピキならぬやうに言葉のまほりイッピキを歌ひます。その次のサンシヒキのまごころになるま一寸音程が飛びますから幼児はきつゝ稍々低く目に歌ふでせうから注意して訂正してやる必要があります。

その次のミンナデのミンも矢張り言葉まほりミンを一語にして歌ひます。

第二の歌詞「カハノミヅ」のカハは四分音符に二字はひつてをりますが、これは八分音符二つにわけて歌ひます。この次四ヶ處ほぎこれと同じく四分音符を二つにわけて歌ふまごころがありますが、前と同様の取扱方にするのです。

此の曲は全體としてあきげなく、可愛らしく歌つていたゞきたいと思ひます。

第二は「雨」です。歌詞は次の通りであります

雨

一、雨が雨が降つてゐる

聞いてごらんよ音がする

ピチピチ、バシヤバシヤ音がする

ほら、お池に降つてゐる

金魚はさうしてゐるかしら

二、雨が雨が降つてゐる

聞いてごらんよ音がする

ポツポツ、ポツポツ音がする

ほら、八つ手に降つてゐる

晴れたら葉っぱが光るだろ

軽い前奏四小節、つゞいてアーメガ、アーメガミ歌ふの
ですが、このアーメガは次のやうな節になつてをります。

— 5 3 4 | 5 3 4 —

ア メ ガ ア メ ガ

しかるに幼児は次のやうに歌ふかも知れませんが、この
の點を注意する必要があります。

— 5 3 3 | 5 3 3 —

ア メ ガ ア メ ガ

キーイテ、ゴランヨのランは切分音になつてゐますから
ゴーランミならぬやうに指導していただきます。

次のピチピチ、バシヤバシヤは齒切りよく稍々小さく歌
ひます。オトガスルで次第に強くなり、次のホーラにつ
きます。ホーラのところは、「ホーラミうた、お池にふつて
ゐるではないか」いふ多少驚ろきの氣持で歌ひます。そ
れから氣をかへて金魚に對する同情の氣持で歌ひます。

第二の歌詞も大體第一の歌詞と同様です。終りのハレタ
ラ、ハツバガヒカルダロはむしろ雨の後を待ちもうけて喜
ぶ心持。

第三は箜篌です。

箜篌

ピカ ピカ ピカ ピカ

ほたるがこぶよ

ピカリ ピカリ

はつばのかげでひかる。

これは短い可愛らしい歌です。眼に見たそのまゝの實景
を寫生したものであります。其處には全く重心のひらめき
があります。

曲は四小節の前奏で始まります。つゞいて歌詞そのまゝ
の言葉のもつリズムのまゝの朗讀的調子で作曲しものであ

ります。故にここさら誇張せずに、さら／＼と兒童に歌はしたいと思ひます。つまり言葉の通りに、むしろ歌詞を朗讀する心持で歌はしたいと思ひます。歌ひ方も六つかしいところはありませんが次の諸點に御注意願ひたいと思ひます。

二段目の「ホータルガトブヨ」のこの附點八分音符と十六分音譜の組合せのこの、附點八分音符の音長を十分保つやうにしてください。又三段目の「ピーカリピカリ」のこの十分附點八分音符の音長を保つやうにしたいと思ひます。

次は「ふしんば」であります。歌詞は次の通りであります。

ふしんば

一、のこぎりのおま　ゴシゴシゴシゴシ

　　かんなのおまが　スースースース

　　くぎをうつおま　トンカチ　トンカチ

　　トン　トン　トン

二、さんかくしかく　大工さんがくれた

　　木のきれ小ぎれ　積木にしませう

　　くぎをうつまね　トンカチ　トンカチ

　　トン　トン　トン

これは大變にかはつた面白い歌だと思ひます。ふしん場の色々の音をまじり入れて一種の音樂的雰圍氣を作つてをります。曲も相當その點を活したつもりであります。

四小節の前奏で始まります。二段目の三小節のこの「ゴシゴシ　ゴシゴシ」は初めのゴに力を入れて歌ひます。それにつゞく「ゴシゴシ」は稍々軽く歌ひます。

三段目の「スースースース」は音をなめらかに、いかにもカンナがすべるやうに歌ひます。最後の「トンカチ　トンカチ　トントントン」は○のついてゐる音を強く歌ひます。

第二章の歌詞が牛櫛く擬音のところに「だいくさんがくれた」又は「つみ木にしませう」といふが如き言葉になつてをるのでメロディーの効果が十分でないのは遺憾に思ひます。節は外に六つかしいところは無いと思ひます。

以上誠に簡單な説明で相濟みませんが、これでおしまひにいたします。